

地質学会関東支部『地質研究サミット』シリーズ

第1回「房総・三浦地質研究サミット」開催のお知らせ（第4報）

日本地質学会関東支部は、『地質研究サミット』を開催します。関東地方の地質に対して鋭い斬りこみをかけている各研究グループの中心メンバーが一堂に会してホットな研究成果を発表するとともに建設的な議論を行い、関東地方地質研究の新展開を図ります。シリーズ1回目は、房総・三浦半島です。

(*『地質研究サミット』は、全国に開かれたものとして運営されています。)

主催：日本地質学会関東支部

共催：千葉県立中央博物館，協力：横須賀市自然・人文博物館

協賛：(株)地圏総合コンサルタント，(株)ダイヤコンサルタント

石油資源開発(株)，国際航業(株)，川崎地質(株)，アジア航測(株)

(株)東建ジオテック

期日：平成25年3月9日(土)・10日(日)

場所：千葉県立中央博物館（千葉市中央区青葉町955-2）

[交通案内 http://www2.chiba-muse.or.jp/?page_id=204]

対象：日本地質学会員および一般の方（参加申込不要；参加費無料；要旨集1,000円予定）

懇親会：3月9日(土)18:00~20:00 博物館内喫茶室「あおば」にて開催。会

費：一般3,000円、学生1,500円。当日申込可能ですが、できれば事前に事務局（高橋直樹）あてメール（takahashin@chiba-muse.or.jp）で申し込みください。

【プログラム】

3月9日(土)

9:30- 受付

10:00-10:05 代表あいさつ、博物館あいさつ

◎セッション1 房総・三浦半島の地質：全体像（第1グループ）

10:05-10:30 房総・三浦半島南部の地質構造：付加体-被覆層システムの概要と課題-

山本由弦（海洋研究開発機構）

10:30-11:45 南房総に分布する中部～上部中新統の石灰質ナノ化石層序～付加体-被覆層システムの構造発達と関連して～。

千代延俊（地球環境産業技術研究機構）・山本由弦（海洋研究開発機構）

10:45-11:05 断層物質の化学分析に基づく地震性すべりパラメータ推定と、沈み込み帯浅部

断層すべり挙動の解明.

濱田洋平・山口飛鳥・亀田 純 (東京大学)・
山本由弦 (海洋研究開発機構)・木村 学 (東京大学)

11:05-11:25 石灰質ナノ化石から見た房総半島中央部の上部中新統-更新統の年代と上総層群／三浦層群境界.

亀尾浩司 (千葉大)

11:25-11:30 上総-下総層群と黒滝不整合～房総半島中央部での反射法地震探査結果から～ (ショートコメント). 浅尾一巳 (千葉県防災計画課)

11:30-11:45 三浦半島北部, 三浦層群-上総層群境界の岩相層序, 石灰質ナノ化石層序および古地磁気層序.

宇都宮正志 (横国大)

11:45-12:00 三浦半島北部における上総層群の岩相層序および地質年代.

野崎 篤 (横国大)

12:00-13:00 昼休み

13:00-13:20 房総・三浦における磁気層序極性反転層準を用いた地球磁場極性逆転年代値の高精度化プロジェクト.

菅沼悠介 (国立極地研究所)・岡田 誠 (茨城大)

13:20-13:40 三浦半島上部新生界の地質学的研究: レビューと今後の課題.

柴田健一郎 (横須賀市博)

13:40-14:00 討論

◎セッション2 沿岸—浅海地質調査のすすめ (第4グループ)

14:00-14:15 三浦半島、武山断層の海域延長部.

荒井良祐 (川崎地質)

14:15-14:30 房総半島南部、外房浅海域の地質構造と陸上地質との関係～浅海域高分解能反射法地震探査『房総 2005』、『房総 2007』の成果～.

山本修治 (国際石油開発帝石)

14:30-14:40 討論

14:40-15:00 休憩

◎セッション3 房総・三浦の地殻大構造 (第2グループ)

15:00-15:20 反射法地震探査から見た三浦半島周辺の地殻構造.

佐藤比呂志・岩崎貴哉・石山達也 (東大地震研)・
阿部 進 (地球科学総合研究所)

15:20-15:40 屈折法・広角反射法地震探査による房総半島下の地震波速度構造.

中山貴隆・佐藤比呂志・岩崎貴哉 (東大地震研)・
阿部 進 (地球科学総合研究所)

15:40-16:00 房総沖における海域反射法地震探査.

三浦誠一・高橋成実・山下幹也・野 徹雄・小平秀一 (海洋研究開発機構)・
小林励司 (鹿児島大学)

16:10-16:15 房総半島中央部での反射法地震探査結果～東京湾から九十九里海岸にかけて

- ～ (ポスター紹介). 浅尾一巳 (千葉県防災計画課)
- 16:15-16:35 三浦半島・房総半島の活構造.
石山達也・佐藤比呂志・岩崎貴哉 (東大地震研)・伊藤谷生 (帝京平成大)
- 16:35-16:40 ショートコメント. 伊藤谷生 (帝京平成大)
- 16:40-17:00 討論

◎ポスター紹介

- 17:00-17:05 本州中央部に発生した地震に伴う断層の環状分布.
鈴木尉元・赤松 陽・足立久男・飯川健勝・久保田喜裕・小林和宏・小林雅弘
- 17:05-17:10 房総半島における大深度ボーリング調査.
林 広樹 (島根大)
- 17:10-17:15 反射法地震探査による嶺岡帯・付加体境界、岩井-曾呂川断層の地下構造.
三縄岳大 (三井石油開発)・太田陽一 (地球科学総合研究所)・
伊藤谷生 (帝京平成大)
- 17:15-17:30 休憩 (ポスターコア)
- 17:30-18:00 第1日目総合討論
- 18:00-20:00 懇親会 (博物館内喫茶「あおば」3,000円 当日受付可)

3月10日 (日)

9:30- 受付

◎セッション4 葉山-嶺岡帯解明の今日的意義 (第3グループ)

- 10:00-10:20 房総半島嶺岡帯の地質構造及び地史—研究の現状と課題.
高橋直樹 (千葉中央博)
- 10:20-10:40 三浦半島「葉山帯」はどこまでわかってきたか—神奈川県立生命の星・地球博物館総合研究の成果から—.
平田大二 (神奈川地球博)
- 10:40-11:00 嶺岡帯の火成岩類とアルコース砂岩の地質年代.
平野直人 (東北大)
- 11:00-11:20 伊豆小笠原弧形成最初期の島弧発達史: 嶺岡帯の起源解明への新知見.
谷健一郎 (海洋研究開発機構)
- 11:20-11:40 環伊豆地塊蛇紋岩帯と蛇紋岩の岩石学的実体.
荒井章司 (金沢大)
- 11:40-12:00 嶺岡帯の地質情報の整理と展望: 嶺岡プレートの実在性と西太平洋のテクトニクス.
小川勇二郎 (元筑波大)
- 12:00-12:05 ショートコメント. 中山貴隆 (東大地震研)

12:05-12:10 ショートコメント、宍倉正展（産総研活断層研究センター）
12:10-12:20 討論

12:20-13:20 昼休み
13:20-14:20 展示見学

◎セッション5 防災・減災最前線としての房総・三浦（第5グループ）

14:20-14:25 セッション5の趣旨ー学校や地域での防災・減災教育の現状。
米澤正弘（千葉県立船橋高）

14:25-15:00 南関東沿岸の古地震調査から復元される相模トラフ周辺の地震像。
宍倉正展（産総研活断層研究センター）

15:00-15:15 津波避難のための津波浸水予測図と液状化しやすさマップ。
浅尾一巳（千葉県防災計画課）

15:15-15:40 コンセンサス会議の手法を取り入れた「私たちの暮らしと防災(小5)」の実践。
粕谷昌良（鴨川市立鴨川小学校）・高木 淳（千葉県立館山総合高）

15:40-15:55 防災活動という絆づくり。
篠原憲一（ひらつか防災まちづくりの会）

15:55-16:10 高校にみる防災と防災教育～浦安高校の場合～。
楠 恵子（千葉県立浦安高）

16:10-16:20 討論

16:20-17:00 総合討論